



グニャーナ（英知）の道か、バクティ（信愛）の道か・・・？

バクティは純粋な愛です・・・そして純粋な愛がなければ神に到達することはできません。いずれの道を行こうとも、すべてはバクティ、純粋な愛から生じます。すべての道は同じゴールにつながっているとはいえ、スワミは1996年8月21日の御講話の中で、2つの素晴らしいお話を通して、グニャーナの道は複雑さに巻き込まれるがゆえに、現代人が究極のゴールに到達するためには、バクティの道の方がより容易で、優れていることを保証なさいました。

グニャーナデーヴァ（英知の神）とバクティデーヴァ（信愛の神）という二人の兄弟がいました。二人は旅をしていました。途中で二人はのどが渴きました。バクティデーヴァはグニャーナデーヴァに尋ねました。

「のどが渴いたけど、どこにも水は見当たらないね」
グニャーナデーヴァは言いました。

「近くに井戸がないか探してみよう」

しばらく行くと、二人は奥底に水が溜まっている古井戸があるのに気付きました。グニャーナデーヴァは「英知を使えばどんなことでも達成できる」と断言しました。

グニャーナデーヴァはすぐさま鳥に姿を変え、その井戸の水のあるところまで飛んで降りて行き、のどの渇きを癒してから上がって来ました。グニャーナデーヴァには至高の真我の知識があったため、どんな姿でも身にまとう力があったのです。

バクティデーヴァは井戸に降りていくことはできませんでした。彼は井戸の近くに座り、心から愛を込めて神に祈りました。しばらくすると、井戸の水がバクティデーヴァの足元まで上がって来ました。足が濡れているのに気づいたバクティデーヴァが目を開けてみると、そこには井戸の水が溢れていました。

グニャーナ（英知）は、人の姿の変化を必要とします。バクティ（信愛）はそのような変化を必要としません。真心からの熱烈な信愛があればそれで十分です。帰依者が必要とするものは、彼のもとに流れ込んできます。信愛より素晴らしいものはありません。

バクティデーヴァは、グニャーナデーヴァに手紙を書きました。それは封筒の中に入った一枚の白い紙でした。グニャーナデーヴァが手紙を開いたとき、そこには何も書かれていませんでした。それから、グニャーナデーヴァは何ページにもわたる返事を書きました。彼は書き終えることができませんでした。グニャーナデーヴァの生涯は、探求と研究に費やされました。実際の経験をする時間はありませんでした。ほとんどの科学者の人生は、このようにして費やされています。実験ばかりで体験がありません。この種の絶え間ない熱心な探究は無益です。

信愛はグニャーナマルガ（知識の道）よりも容易な道です。信愛を通して、神の御名を唱え続け、愛を込めて神を憶念するならば、あなた方は何でも成し遂げることができるのです。

